丹沢大山自然再生活動報告会

～人も自然もいきいき丹沢～

報　告　書

平成 26 年２月２日(土)

人も自然も
いきいき
丹沢

丹沢大山自然再生委員会

目　次

１　概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

２　報告会の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

３　開会あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

４　発表内容
（１）清川村における里山再生・『煤ヶ谷の森』森林整備・・・・・・・・・・・・・・・ 8
（２）相模原市青根における神の川広河原の植林、下草刈、シカ柵補修・・・・・・ 12
（３）相模原市鳥屋『魚止めの森』森林整備および秦野市ヤビツ峠における清掃・・ 16

５　活動報告を聞いて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

６　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

７　発表内容＜発表資料＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

８　配付資料
（１）プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
（２）ポスター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
（３）チラシ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

１　概要

（１）報告会の目的

相模原市などの北丹沢地域における取組みについて、これまでの活動報告を行い、今後の取組みについて意見交換を行いました。

（２）主催：丹沢大山自然再生委員会
共催：神奈川県自然環境保全センター

（３）日時
平成 26 年 2 月 2 日(日)13:30～16:30

（４）会場
ソレイユさがみセミナールーム１

（５）参加者
①　一般参加者：51 名

②　発表、挨拶、講評者：8 名
- 丹沢大山自然再生委員会
- 神奈川県山岳連盟
- NPO 法人北丹沢山岳センター
- 町田グラウス山の会
- 緑区青根地域振興協議会
- NPO 法人みろく山の会
- 神奈川大学学士山岳会

③　運営スタッフ：30 名
- 丹沢大山自然再生委員会
- NPO 法人北丹沢山岳センター
- NPO 法人みろく山の会
- 神奈川県山岳連盟
- 町田グラウス山の会
- 藤野山岳会
- 神奈川県自然環境保全センター

２　報告会の流れ

【全体進行役】神奈川県山岳連盟　藤野山岳会　小池栄一郎

開会のあいさつ　　13:30～13:35

丹沢大山自然再生委員会　委員長　羽山　伸一

丹沢大山自然再生委員会の発端は今から 10 年前、2004 年から 2005 年にかけて 500 人を超える多くの関係者の方々が、病んでしまった丹沢をどうにか元の形に取り戻せないか、そのために必要な調査を集中的に行っていこうという取組みから始まったとのご説明を頂きました。

この活動はまだまだ緒に就いたばかりですが、今年で丹沢大山総合調査後 10 周年を迎えることから、再生委員会として調査部会という新しい部会を立ち上げ、これまでの対策で本当に成果が出ているのかということをきちんと評価出来る体制を整備しながら、今後も活動を進めていきたいとのお考えと、再生活動に関心を持たれ、実際に取り組んでいる団体の方々に丹沢大山自然再生委員会に加わって頂きまして、ますます活動を発展させていきたいとご挨拶頂きました。

活動報告

（１） 清川村における里山再生・『煤ヶ谷の森』森林整備　13:35～14:00

神奈川県山岳連盟　松隈　豊

神奈川県山岳連盟が昭和 29 年に発足してからの紹介、環境保全活動概要、活動場所の概要、山のセミナー、環境登山での清掃と植樹、指導者育成等の活動の経過・課題、現在までの活動の成果、これからの活動の方向についてご説明を頂きました。

森林ボランティア活動では、核として実行委員会を設立し、日頃の登山で培った技量を基盤として活動を行う中、森林との触れ合いを通しての自然環境に対する意識の向上や、共同作業を通しての交流、また、地元理解を得るために地元の方々との懇談会なども行うなど、幅広い活動として取り組んでいるとのご説明を頂きました。

（２） 相模原市青根における神の川広河原の植林、下草刈、シカ柵補修　　14:00～14:25

NPO 法人北丹沢山岳センター　加藤　博恵

NPO 法人北丹沢山岳センターは、自然保護活動を主な活動として登山道の整備、美化活動、残骸整理、植林活動等多彩な運動体として、かつて神の川流域に入っていた山梨県、神奈川県、東京都などの山岳会やその OB 達によって創られたとご説明頂きました。

活動内容としては平成６年～平成 11 年の５年間は４コースの登山道を掘り起し、新道等の整備を行い、平成 12 年～平成 15 年までの３年間は避難小屋や山荘の残骸整理、平成 16、17 年には広河原の植林活動、平成 18 年以降には広河原でのシカ柵設置、植林、下草刈り、清掃活動等を行っていることについてご報告頂きました。

（３） 相模原市鳥屋『魚止めの森』森林整備および秦野市ヤビツ峠における清掃

14:25～14:50

町田グラウス山の会　安田　優

町田グラウス山の会は、日本勤労者山岳連盟に所属する、町田、相模原を中心とした、会員数約 180 名の総合山岳会で、組織には自然保護部も設けられており、丹沢ボランティアネットワークにも所属しているとご説明頂きました。

登山道のゴミは目立たなくなってきていますが、林道などからの不法投棄が目立つようになってきたヤビツ峠周辺で毎年 11 月に実施している清掃活動（クリーンハイク）、周年行事の記念として実施している 20 周年、25 周年、今年度は 30 周年の記念植樹とその後の手入れ作業等の活動についてご報告頂きました。

活動報告を聞いて　　15:10～16:20

・会場からいただいた質問に対する回答

・発表者から一言

【助言者】

緑区青根地域振興協議会　　関戸　正文

NPO 法人みろく山の会　　鈴木　　茂

神奈川大学学士山岳会　　落合　正治

【進行役】

NPO 法人北丹沢山岳センター　理事長　　杉本　憲昭

まとめ　　16:20～16:30

丹沢大山自然再生委員会　県民事業専門部会部会長　　久保　重明

会場の様子

会場設営

リハーサル

司会

会場の様子

３　開会あいさつ

丹沢大山自然再生委員会　委員長　羽山　伸一

みなさん、こんにちは。

貴重な日曜日、これほどたくさんの方々にお集まり頂きまして心より御礼申し上げます。

もしかしたら今日初めて聞かれる方もいらっしゃるかもしれませんが、私、主催団体であります丹沢大山自然再生委員会を、長年この活動に携わっていらした木平先生の後を引き継ぎまして、今期から委員長を務めさせて頂きました羽山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今回の報告会に先立ちまして、この委員会について簡単に紹介をさせて頂きたいと思います。お手元にある小さなパンフレットと、報告会のプログラムの３、４ページに見開きでこの委員会のことが紹介されていると思いますので、ご参照頂ければと思います。

こういう場でプライベートの話をするのはどうかと思いますが、私は丹沢に登り始めて、今年で 50 年目になりました。長いもので半世紀が経ちましたが、思い返すと 50 年前と今の丹沢は似て非なるものと感じております。外から見ている分には大してわかりませんが、山道を歩いていると本当に急激な変化が感じられます。このままでは丹沢が死んでしまうのではないかと心を痛めた多くの方々、関係者の方々が丹沢の調査、対策に携わってこられました。

丹沢大山自然再生委員会の発端は今から 10 年前、2004 年から 2005 年にかけて 500 人を超える多くの関係者の方々が調査団を編成して、病んでしまった丹沢をどうにか元の形に取り戻せないか、そのために必要な対策を考えるための調査を集中的に行っていこうという取組みが始まりました。

その２年間の調査の結果を受けて 2006 年に入り調査の結果を具体的なアクションプランにまとめて、当時の県知事、副知事に県も民間も挙げて丹沢自然再生のための取組みを一緒にやりましょうという声を掛けさせて頂きました。その取組みのための受け皿として 2006 年９月に丹沢大山自然再生委員会が設立されました。

再生委員会は現在のところ、NPO、企業といった民間団体が 23 団体、国、県、県内８市町村、各分野の専門の研究者の方々といったメンバーで構成されて今に至っています。丹沢大山自然再生委員会に加入してない多くの個人の方々も丹沢の再生に取り組まれていることと思います。

ただ、それぞれがいくら努力をしても、同じ目的、同じ方向を向いて、しかも科学的に対策を進めないとなかなか成果が出ない、ということが過去 10 年、15 年の間で経験した教訓でありました。

教訓を踏まえ、基本構想というものを作りまして、同じ方向を向いて皆で対策を進めていこうということになり、そのための組織がこの再生委員会です。調査後、今年で 10 年目となり、いくつかの成果が見えて参りました。特にシカの問題、それから水源税を導入し

て水源林の再整備が急速に始まっております。

ただ、これらを上手く調和させませんと、またシカの増加、森林の破壊というものを招いてしまう可能性があることがわかってきましたので、全国に先駆けて、シカと森林を一体的に管理する方法を神奈川県が導入して、現在ようやく、少しずつではありますが、丹沢の植生が回復して参りました。こういった成果も得られている段階でございます。

まだまだこの活動は緒に就いたばかりでございます。今年で調査開始 10 周年を迎えますので、再生委員会として調査部会という新しい部会を立ち上げまして、これまでの対策で本当に成果が出ているのかということをきちんと評価出来る体制を整備しながら、今後も活動を進めていきたいと思っております。

そういう中でこの我々の活動、それぞれの地域の方、それから県民の方にお知らせする場というのを毎年設けてきた訳ですが、実は相模原市さんで開催させて頂くのは今回が初めてとなります。

市町村合併で突然といったら言葉は悪いかもしれませんが、旧相模原市民の方は丹沢の裾野に住んでいた訳ですが、現在では丹沢の天辺から相模川から、全て相模原市に入りましたので、やはり地域としては、非常に重要な場所でもありますし、関心を持って頂きたい場所でもあります。そして何よりも神奈川県 900 万人の上水道 8 割を生み出してくれているのが、この丹沢を中心とした水源地域です。ですから、そういったものに多くの方々に関心を持ってもらいたい、そういう思いで今回、相模原市さんでの開催ということにさせて頂きました。

この地域では色々な取組みを行っている団体が多いと聞いております。まだまだ再生委員会には民間団体 23 団体と、多いようでそれほど網羅している訳ではありません。ぜひともこれからこういった再生活動に関心を持たれ、実際に取り組んでいる団体の方々に丹沢大山自然再生委員会に加わって頂きまして、ますます活動を発展させていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

冒頭で再生委員会の紹介をさせて頂きましたが、あいさつに代えさせて頂きます。

４　発表内容

（１）清川村における里山再生・『煤ヶ谷の森』森林整備

神奈川県山岳連盟　松隈　豊

みなさま、こんにちは。

ただいまご紹介に与りました神奈川県山岳連盟 松隈と申します。神奈川県山岳連盟の方で自然保護を担当いたしております。

一つよろしくお願いします。

話を進める前に、神奈川県山岳連盟は一体どんな団体かということを簡単に、ご説明させて頂きます。

私ども神奈川県山岳連盟は昭和 29 年に発足いたしました。現在のところ、市町村に 29 の山岳協会というものがございまして、それに加盟いたしております、いわゆる山岳会やアルパインクラブといったものがございまして、77 団体ございます。その配下に 1903 名の方がメンバーとして登録しているという形になっております。

山岳連盟ですので、スポーツクライミングから登山まで幅広い活動をしております。要は山を通してのスポーツということでやっておりまして、山に登っているだけではなく、自然を尊ぶ心、ローインパクト登山を唱え、丹沢をフィールドに山の環境保全活動にも取り組んでいることから本日、色々とお話をさせて頂くこととなりました。

どんなことをやっているのかということで、簡単に主な活動についてご紹介します。

まず山の自然セミナーというものがございまして、これは、県山岳連盟の会員のみならず一般参加の方も募集しまして、山の話、山に親しみを持ってもらう話をするセミナーでございます。年１回開催いたしております。

続いて環境登山。これは、以前は清掃登山と申しましたが、ゴミを拾うことのみならず、もう少し環境に優しいことをやってみたいということで、植樹をしたり、登山道を補修したりといったことをやっております。これが二ノ塔の活動になりますが、2009 年から始めまして、色々苦労してやっと植樹した木が定着することになりました。３年ほど失敗したのですが、３年経ってから春植えを実施することにより、またシカ対策の防獣ネットを使用して、木が定着するという形になっております。現在のところ 200 本ほど木が植わっています。健全に育っているという状況でございます。

それから、指導者育成というものもございます。私どもでは県や環境省の自然公園指導員と、同名なのですが日本山岳協会の公認の自然公園指導員というものがございます。そういった方々を育成するための研修や企画をいたしております。

次に、森林づくりボランティア活動というものをやっております。私どもの森林活動は、県民との協働による森林づくり定着型ボランティア活動というちょっと長い名前なのですが、一応軍資金が必要なものですから、こういうところに活動しますということで登録させて頂いて、そこの助成を得て活動を進めている状況でございます。

やり方としては、いわゆる山登りとはちょっと異質な感じがしますので、連盟内に、森林づくりボランティア活動実行委員会とまた長い名前の実行委員会を作りまして、神奈川県山岳連盟の幹部から選出された委員長それから顧問、参与、それに委員が核となって活動を進めております。

主に、山の仕事は危険が伴いますので、今のところは公開とせず、連盟の会員で実施をしているという形になっております。要は、登山で培った技術とか経験を社会貢献しようというような、本質的なボランティア活動というところに位置づけております。どちらかというと、山登りからするとアルバイト的なのですが、いわゆる精神的に社会貢献をしたいのだということでやっております。

参加して頂く会員の方々なのですが、こういった活動を通しまして、自然環境への意識を再確認して頂くということで活動の場を提供しております。

これは 2009 年の４月から始まりまして、ちょうど今５年目なのですが、あと５年、2019 年の３月までということで 10 年間、県と覚書を交わしましてやっております。

場所ですが、煤ヶ谷の水源林ということになりますが、愛甲郡清川村で、宮ヶ瀬湖のすぐ近くでございます。フィールド面積は 7.8ha、約 8ha ありまして、サッカーの球技場が約８面入るというスペースでございます。標高は海抜 300ｍから 350ｍでいわゆる里山の雑木林ということになります。ちょうど宮ヶ瀬湖のすぐそばなのですが、エリアにはコナラやカエデやシデなどの落葉樹、一部にはスギ、ヒノキの混交林があるという状況でございます。場所は資料に記載の通りです。

神奈川県の水源の森林づくりによるここの買取水源林は、15.65ha あるのですが、これをほぼ半分のエリアを使わせてもらって活動を進めているということでございます。

我々のエリアは沢が二本入りまして、沢と稜線部なのですが、結構谷が深くて傾斜がございます。木がたくさん植わっているのですが、実際に急傾斜の部分は非常に危険が多いので、稜線部だとか、低端部を利用して活動を進めているということになります。これを地図上に表しますと、差し渡しが水平距離で大体 400～500ｍぐらいの、非常に広いエリアでございます。中心部には、江戸時代に作られた祠がございまして、我々の活動の象徴として使っております。あとは、スギ、ヒノキ、混交林の他はほとんど雑木林あるいはコナラ等の大木が植わっております。

ご存知のとおり宮ヶ瀬のあのあたりはヒルの被害が凄くありまして、なかなか難しいところもございますけれども、第１回の活動は平成 21 年 12 月から始めております。現在に至りまして 32 回となっております。

１月には先ほどの祠で山神祭りをし、お参りして１年の無事ということをお願いして、それから仕事が始まるということでございますけれども、６月になるともうヒルが出てきまして、これ以降は作業が難しいのです。というのは、このエリアは雑木林が結構荒れておりまして、落ち葉がかなり降り積もっており、中に入ればすぐヒルがいるという状況でございます。従いまして、６月から 11 月までは休養期ということになっております。11 月になって下期の再開ということになっております。

この中でやっておりますのは、林内整備が主なのですが、それだけではなくて植生観察だとか、自然観察会だとか、ゴミの収集、それから地元交流会等です。ゴミの収集というのは先ほどの宮ヶ瀬湖のすぐそばに県道が走っているとご紹介したのですが、結構ゴミのポイ捨てがありまして、その辺の収集をやっております。５月 30 日のゴミゼロの日にはゴミを収集して、清川村の方にお願いしてゴミの回収などをやっております。

地元交流会では、我々があそこでやっているということが皆様に知れ渡るように清川村の方々をお呼びして、色々お話を伺うという集いを行っております。

林内作業の主な内容なのですが、普通こういった再生活動となると、木を植える植樹等ということになるのですが、我々の主な仕事というのは、落ち葉かきとか、倒木だとか、落枝だとか、ツル切りだとか、間伐いわゆる除伐、そういったことが主な作業になっております。木を植えるということは全くいたしておりません。まだそこまで至っていないというのが事実かもしれませんが、とにかく明るいヒルのいない里山に戻したいということで日夜頑張っているという状況でございます。それだけではおもしろくないので、除伐したクヌギ等をほだ木としてきのこを栽培するといったことも行っております。だいたい菌を植えて一冬越えた次の年ぐらいに出来ます。長い話なのですが、そういうことをやりつつ、林内作業を楽しんだよと、また植えることによって自然のサイクルのようなもの、あるいは自然の恵みのようなものを皆で体感しようということでやっております。皆で集まりまして自然再生だということで誓い合って色々作業を進めているという状況でございます。

その他の活動として、お正月に祠の前に立って一礼して１年の無事を願うということをしていたり、活動するまでの場所にやはり作業道が必要となりますので、作業道造りも一緒にやっていたり、落ち葉かきをしたりしています。降り積もった落ち葉が結構ありますので、ある程度まで落ち葉をかいて少し薄く落ち葉が残る程度にして、大地を明るくするということでやっております。

他に、研修会になりますが、林内の場所を利用しまして、自分たちの活動内容を外部の方にご説明するというフィールドに使っていたり、木を伐倒して並べて砂防みたいな形で使っていたりしております。また、夏場の展葉した時期にどれだけ場所が暗くなるかということで、林内照度を測っております。当初は数パーセントだったのですが、活動を始めまして、林内照度が約 20％程度にアップしているという状況でございます。

整備の終わったエリアについてご説明致します。まだ若干ツルが残っておりますが、そういう状態がこの部分にも凄くあったという状況でございます。太陽の光線が射しまして大分地面が明るくなっているということがお分かりになるかと思います。反対側を見ると、柵工を作り砂防しているという状況になっております。

山作業も色々変わりまして、今までの我々の登山の技術がなかなか使いにくいところがございます。機械化が非常に重要であると感じまして、この５年間の内に、チェーンソーが使えるように特殊安全教育を受けて頂き、認定者になった方々でチェーンソーを使って、あるいはブロワを使って作業をしているという状況でございます。

結構こういう作業にもお金が掛かって、我々メンバーも投資をしているという状況でございます。安全に関しましては、今まで事故は全く無かったのですが、平成 24 年度からチェーンソーを使い始めましたので、やっぱりボランティア保険に入りましょう、ということになり 24 年度から保険に加入しております。なかなかに投資が掛かりまして、チェーンソー、ブロワ、チルホール等々を使います。これを使って能率的にやっていくことが安全であるということで進めさせて頂いております。

これからどうなっていくかということが問題でして、フィールドの更なる利用ということを我々は今考えていきたいなというふうに思っております。木を切ったりする勤労奉仕なのですが、それだけではなく、あのフィールドをふれあいの場のような、一般の方にも木を切る作業ではなくて、そこに来て頂いて、こういう活動をすると綺麗になって、ヒルもいなくなったということを体感して頂いて、また森林のありがたさを感じて頂くという場にしたいなということで、そういう方向に向かって再生活動を進めていくというふうにしたいと思っております。

場所は秘密なのですが、かなり伐倒しまして明るくなりますと、私たちのフィールドにはこんな綺麗な花が咲いております。なかなかのものです。この場所をお教えしてしまうとすぐ無くなってしまうので、秘密になっております。場所は 8ha ぐらいあり、そこに来て頂くとこの場所は分かるのですけれども、広いものですからその点を特定するのはなかなか難しいということになります。という訳で、これからも自然に親しみつつ、皆が楽しんで安全に気をつけてボランティア活動をさらに続けていきたいというふうに考えております。

本日はどうもご静聴ありがとうございました。

（２）相模原市青根における神の川広河原の植林、下草刈、シカ柵補修

NPO 法人 北丹沢山岳センター 加藤　博恵

みなさん、こんにちは。

ただいま紹介されました、北丹沢山岳センターに神の川ヒュッテ友の会という組織があるのですが、そこの会長を５年ばかりやらせて頂いています加藤といいます。よろしくお願いいたします。

私どもの方はちょっとハイテクが使えないので、耳だけちょっと 10 分ぐらいお貸し頂いて、活動の報告をいたします。

では本題の NPO 法人北丹沢山岳センターの環境整備活動の報告をします。

まず、NPO 法人北丹沢山岳センターはどういう組織かと言いますと、平成６年に神の川ヒュッテが再開されると同時に、自然保護活動を主体に登山道の整備や美化活動、残骸整理、植林活動等多彩な運動体として山梨県、神奈川県、東京都などの山岳会とその OB の方によって作られました。その後、平成９年からは蛭ヶ岳の山荘の方も管理するようになりましたので、その両方の友の会の会員も交えて活動しています。全体で 500 人ぐらいの人数がいると思います。

活動内容に移りますが、平成６年から平成 11 年までの５年間は神の川より大室山に至る日陰沢新道と神の川広河原より金山谷乗越に至る源蔵新道、通称佐藤新道と呼ばれる道と、神の川の地蔵平に至る地蔵新道、折花神社より鐘撞山に至る鐘撞山登山道と、かつての４つのコースを掘り起こし、新道等の整備活動をしておりました。

登山道の整備をしていた５年間のことが、ここまで１分もかからないで終わってしまったのですが、実際にはツルハシ、のこぎり、カマ、オノ、ハンマー、トラロープ、目印用のテープ等々の備品を持ってリュックに詰め、休日の度にみなさんで山に入って、ルートを見つけながら新しい登山道の整備ということをなさったのだと思います。

その後には、定例活動になりましたが、平成 12 年に第一回目の蛭ヶ岳旧山荘廃材回収ボランティアという活動が行われました。現在の蛭ヶ岳の山荘の前の建物を建て替えた時の残骸が周りに相当数散らばっていたそうで、それを会員の方とボランティアの登山者の方を交えて集め、集材したものをヘリコプターによって回収したそうです。平成 13 年には犬越路非難小屋に同じく残骸がありましたので、そこも整備いたしました。平成 14 年には原小屋平山荘の残骸整備ボランティア、平成 15 年には地蔵尾根伐採小屋残骸整備と植林ボランティアと、この４年間は小屋の残骸整備を中心に活動してきました。年間を通じて、半分ぐらい土に埋まったものや壊したものが谷に放置されているようなものの残骸を集めて、人の力によってみんなで担ぎ上げて、一箇所にまとめてそれを神の川ヒュッテまで人力によって回収したそうです。

私はまだ会員の仲間入りをしていなかったので、回収された物品について直接は分からないのですが、会員の方のお話を聞くと、伐採小屋に残骸整備に行った時は、一升瓶がゴ

ロゴロ転がっていたり割れた破片があったりして、後片付けが大変だったそうです。以上は、毎年 100 名前後の会員の方と一般の登山者のボランティアの力を借りて成し遂げました。

平成 16 年の春と秋より、植林の活動を神の川広河原というところで始めました。神の川広河原という場所は神の川の本流と彦右衛門谷が合流するところで、谷が開けた場所で、昔は金の採掘小屋があったと言われている場所です。広河原の彦右衛門谷の氾濫で流されて両側が抉れたのですけれども、建設省の方で三段の堰堤を作ってもらいました。そこに１段目の上のところからは、盛り土をし、脇のところ５メートルほど高くしたところに平地を作って、一番下のほうの合流点の河床と同じような高さのところから順番に上に植林していきました。

平成 17 年の秋には広河原に植林と下草刈りの活動をしました。この年ぐらいになって苗が活着してきまして、植えてようやく芽が吹いて少し伸びたなというところで、今度はシカの害が出てきまして食害が大変多く発生するようになりました。そのため、一番下の段は作れないのですが、二段目と三段目の平らな場所に、次の年からシカ柵を設けることに致しました。平成 18 年、19 年、20 年にもそれぞれの秋に、広河原においてシカ柵を設置して、植林と下草刈とそれから清掃活動を致しました。

平成 20 年ごろになりますと、高さが１ｍちょっとのシカ柵が完成しました。そこに四段の鉄条網を張ったのですが、間隔が広すぎたようで、シカがそれを押し広げて中に入ったような形跡が見受けられたので、シカが入れないように全体に幅を狭くして、鉄条網の中間にそれぞれ補強を入れて幅を狭くしました。またその後、山側からの倒木によって、せっかく作ったシカ柵が倒れたりすることがあったので、そういうものを修理するような活動に変わってきました。以上のように、平成 21 年から平成 25 年の間、それぞれの秋に同じく広河原において、シカ柵の補強、補修と植林、下草刈、清掃活動を行ったということになります。

植え付けから 10 年が経ち、ちゃんと手入れしてあってシカ柵もしてあるので、そのころになると動物も何も入れなくなったのですが、今度はススキが大発生いたしまして、秋に刈りに行くと苗がどこにあるのか分からないという感じでした。例年、秋には手刈りでやっていたのですが、手刈りでは追いつかないということで、みんなで苗の周りは手刈りにして、後のところは刈払機で刈っていくような感じになっております。

11 年間広河原に植林をしたのですが、だいたい 2000 本以上のブナとかミズナラを植えつけました。ですが、石だらけな土地なのでほとんど土がなく、植える穴を開けるにしても、スコップで掘るような硬さではなくて、ツルハシでやらないと穴が開けられないというような、そんな場所なのです。下手にやると石にツルハシをぶつけて手が痺れて作業にならないような感じで、気をつけて石と石の間を通して、その石を起こしてそこに植えつけるというような感じでした。

植え付けの時期として、いつも秋口の 11 月の終わりぐらいに活動しているのですが、その頃というのは植え付けの時期ではないのです。時期外れのため、現在活着しているのは、

だいたい 11 年間で植えた数の 2 割程度のような感じだと思います。育ってくれたものでは僕の背ぐらいが一番大きくて、後はもうほとんどが植えたときとそんなに変わっていません。というのは、周りに生える草の方が自然の力が強くて、植林したものになかなか日光の光などの栄養が届かないということがあるのではないかと思います。

毎年４月の第二週の日曜日は北丹沢の山開きにあたり、折花神社という神社で式典を行います。その後に神社周辺の神の川林道の清掃活動を、当日来てくれたみなさんでやって頂いております。

あと不定期な活動としまして、蛭ヶ岳や檜洞丸や袖平山、大室山、鐘撞山周辺、北丹沢全域の登山道の整備ということで、大雨後の崖崩れの箇所の整備、登山者への注意看板の設置をしています。特に北丹沢のところでは犬越路周辺のところと、袖平山周辺のところが崖崩れが大きく、登山道まで及んでしまっているところがあるのでそこを重点的にやっています。あと、大風や台風の後などの倒木処理ということで、特に北丹沢周辺、他のところでも今そうじゃないかと思うのですが、松枯れ病が非常に発生しているらしく、松の木の倒木が非常に多くなっています。一般のところは手に負えないので出来ないのですが、登山道にかかっているようなところでは、先ほどお話ししたようにチェーンソーを持っていって、登山道のところを切り開いて、脇に寄せるというぐらいの倒木の処理を行っています。

登山道の草刈りということでは、ここ何年か、特に袖平山や黍殻山周辺から青根にかけての登山道にヤマビルが生息地を伸ばしてきまして、夏になると登山者の被害が出るようになってきました。そのために草の茂っている登山道を発見した場合は、そこをそのままに放置しないで草刈をするようになりました。このようなことは、登山者からの情報や、うちが管理している山荘に来た登山者の情報や、山荘の管理人さんが毎週交代で上り下りしていますので、そういう方からの情報などを入れて、その都度山岳センターで必要な人数を割り出して、ボランティア活動をやっているというような感じです。これはほとんど通年でやっております。

今後の活動ですけれども、広河原の植林箇所では、今までは秋１回だけの下草刈で済ませていたのですが、ススキが凄く茂ってきてしまっていますので、それだとほとんど苗が大きくなってくれません。ですから、時間が許して人が集まるようであれば、下草刈りを実施して苗の成長を助けたいと思っております。また、登山道の整備や清掃については、現在の活動をそのまま続けていければと思っております。また、新たなところに植林を行うようなことがありましたら、今度はただ苗を植えるのではなくて、子どもたちを交えてドングリを拾うところから始めて一緒になって育て、成長したらそれを植えてみたり、または場所を限定してそこにドングリを蒔いて直播きのドングリから芽を出させて管理してみたり等々にしたいと思っています。僕からすると、その場で芽吹いたものを育てる方が早いような感じを受けています。他にもまだ色々な情報を集めてみないと分からないのですが、そういったことも出来ればと思っております。

僕の年齢が今 65 歳なのですけれども、私達のようなボランティアの NPO 団体や友の会では、ほとんどが高齢の方で僕が一番若い方です。ですので、若い人が参加出来るような企画が出来て、若い世代に伝えることが出来ればなと思っています。僕が考えるには、私たちの子どもの頃のように色々な虫だとか、草花だとか色んな魚だとか木の実とか山菜とかに会えるような、山や川に戻ってくれたらと思っています。本当に自然のサイクルからすると、こういう活動は小さい活動なのですけれども、長く続けて良き自然再生の手助けが出来ればと思っています。

ご静聴、ありがとうございました。

（実際の活動の様子を撮影された映像と、テレビで放映された番組をこの後上映されました。）

（３）相模原市鳥屋『魚止めの森』森林整備および秦野市ヤビツ峠における清掃

町田グラウス山の会　安田 優

町田グラウス山の会の安田といいます。よろしくお願いいたします。

先ほどの２つの団体の発表から比べますと、我々が行っている活動は貧弱かとは思いますが、１つの例として紹介させてもらいたいと思います。

最初に町田グラウス山の会の紹介ですが、町田とありますように東京都の町田市、また相模原市、この辺も含めてですが、中心に 108 名ほどの会員が参加している総合山岳団体でございます。冬場は雪山登山、山スキー、またハイキングに参加する会員が圧倒的に多い会です。また、その中に自然保護部というものも含まれておりまして、以前、保護部の部長をやらせてもらっていた関係で今、この発表をさせてもらっております。自然保護部の活動として、毎年 11 月にクリーンハイクなどと呼んでおります登山道の清掃などの活動を行っております。

発表の順番が入れ替わったと思うのですが、最初にクリーンハイクについて報告させてもらいたいと思います。みなさまご存知かと思いますが、ヤビツ峠は表丹沢の登山口です。今はもう火災で無くなってしまいましたが、そこから富士見橋にかけての林道の下、相当多くのゴミが目に付いていました。私も丹沢をよく歩くのですが、そのアプローチとして、通る度にゴミが落ちているなと、感じました。またゴミといっても、不法投棄で、冷蔵庫だとかテレビだとか自動車の残骸、そういったものが非常によく目に付いていました。

実際には、山道を歩きながらゴミ拾いもやった訳ですが、正直言って登山道のゴミはほとんど目に付かなくなっています。よく弘法山に行くのですが、弘法山の中でもゴミを拾ってくれている方もいらっしゃいますし、あるいは我々が行っているヤビツ峠周辺でも色々なボランティアがゴミの回収に努めてくれています。

回収したゴミの量を最近のものでお知らせしますと、2010 年は 38 名参加で 375.5 kg、だいたい一人当たり 10 kgぐらい拾えたかなと思います。2011 年は雨天のため中止、2012 年は 50 名参加で 457 kgと、だいたい毎年同じような量のゴミが回収されています。今年度の 2013 年は 43 名の参加で 347 kgとちょっと少ない量ですが、今年はヤビツ峠だけではなくて、蓑毛の方から大山を越えてヤビツ峠へ集合、あるいは、大倉の方から三ノ塔を登って、蓑毛へ集まる登山道のゴミ回収も含めてやったので若干少なくなっているのではないかと思います。内訳ですが、燃えるゴミと燃えないゴミで分けてあるのですが、燃えるゴミがほんのわずかで、燃えないゴミがほとんどでした。なぜかと言えば、先ほど言いましたように、テレビだとか冷蔵庫、自動車の残骸だとかそういったものが多かった訳です。回収したゴミにつきましては、秦野市の観光課の方に毎年回収作業を協力してもらっております。

続きまして、魚止めの森の植樹活動です。我々は実際には山岳団体ですので、植樹を目的に活動を行っている訳ではありませんが、数年置きの行事として、植樹活動も行っております。20 周年に当たる年には、丹沢の大倉尾根、花立のところに植林地があるかと思う

のですが、その植林活動にも参加させてもらいました。その活動については、神奈川県の方の音頭で参加団体を募られたようなので、我々グラウス山の会も参加したという経緯があります。

その後 25 周年にあたる 2008 年には、植樹活動のやり方について 25 周年実行委員は相当苦労されたようなのですが、先ほど紹介がありました杉本さんらの紹介によりまして、『魚止めの森』（かつて国際観光センターというものがあり、マス釣り場があり、車で入ってきてそのままキャンプが出来るようなオートキャンプ場といったものが設置されていた場所の跡地）を提供してもらい、そしてまた苗木も提供してもらいました。我々が協力できたのは、42 名の人手ということになるかと思います。

作業後、苗木は植えたのですがシカに食べられてしまうだろうと考え、それを防ぐために周囲をネットで覆っておきました。2009 年に手入れ作業に行ったのですが、そのネットを支える支柱がネットごと倒れてしまっていたり、雪の重さなどで倒れてしまったりして苗木が随分痛んでしまっていました。原因を調べてみると、先ほどの報告にもありましたように、この『魚止めの森』はオートキャンプ場だったために、段々のある平坦地にはなっているのですが、その土には小石が相当多く入っていて、石だとか岩がゴツゴツしているところには、やはり支柱が入らなかったことがわかりました。手入れするにはどうしたらいいかということで、素人考えではありましたが、１ｍぐらいの鉄柱を買ってきまして、それでまずは下穴をハンマーで打ち込んで穴を開け、そこに園芸用の支柱を入れるという作業をしたりしました。

そういったふうに毎年手入れ作業をしている訳ですが、『魚止めの森』まで行く道路にも問題点があり、ゲートがあって入れなかったり、土砂崩れがあって入れなかったりということがありました。また、夏場はヒルがたくさんいて入れないので、冬場入ることが多いのですが、路面が凍結していて車が途中までしか入れず、そこから先は１時間 30 分かけて歩いて入るということもありました。そういった場所で他に植樹を行える場所がないかということを考えながら手入れ作業も行っていた訳です。

今年度 30 周年を迎えまして、その 25 周年と同じように植樹をやろうと、場所の候補地探しというところからまた始まった訳なのですが、ちょうど 25 周年の手入れ作業を行った際に、杉本さん達がススキの刈り払い等を行っていらっしゃって、まだこの上に植えられる場所があるということを耳にしておりましたので、そこをまた提供して頂き、更にはまた、何を植えたら良いのかということも分からないので、県の自然環境保全センターに行った時に苗木を手配する場所を教えてもらいました。すぐに電話で連絡しましたが、この時期はもう苗木はないかもしれないということでした。実際に考えてみれば、草花と違って樹木ですから、冬場に根が活動していない段階で根巻き作業したものをある程度用意して、２月、３月くらいの雪が解けたあたりに植えるのが順当だということなのですね。ただ、幸いにも北丹沢山岳センターさんから提供して頂いた苗と、ヤマボウシの苗が何十本かありましたので、合計で 60 本その場所に無事に植えることが出来ました。参加者も 36 名来てくれたので、人員の方は十分確保できていたかと思います。その後、12 月に植樹活

動、植えた場所を確認し、また 25 周年の植樹の手入れ作業に行きました。支柱などもほとんど倒れずに持ち堪えてくれていましたし、その 1 週間ほど前にも我々がグラウスの森と勝手に名付けているその場所の下草刈をしました。

丹沢大山内で植樹が出来る場所があれば、木を植えるのは下手ですけれど山の中は得意ですので、そういったところに行って手助けは出来るのではないかと思っています。実際 12 月の手入れ作業のときに気が付いたのですが、他の団体が植えた樹木があり、ススキが成長するだけではなくて、イロハモミジを植えてある横にケヤマハンノキが十分成長しているのです。我々グラウスの森の中にも、葉っぱが何枚か残っている立派な木が何本かあり、調べてみましたら、オオバアサガラという木でした。そういった川だとか河原に多いような植物、またシカに食べられにくい植物のような、そこに植えた方が良い植物もあるのかなということに気がつきまして、何でもかんでも手に入れた樹木を植えるのではなくて、やはりそこにあった植物、樹木があるのかもしれないし、丹沢で実生から育てたものを定着させてみたいというようなことも思っているところです。この後情報交換会もあるようですから、その場でそういった情報も教えてもらえれば嬉しく思います。簡単な報告で申し訳ありませんが、以上で終わりにしたいと思います。

どうもありがとうございました。

５　活動報告を聞いて

進行役を務めさせて頂きます、NPO 法人北丹沢山岳センターの杉本と申します。よろしくお願い致します。

先ほどは地域主体の取り組みについて三名の方にご報告頂きました。今回のご報告以外に丹沢大山地域では様々な団体が自然再生活動に繋がる取り組みを実施しております。今後、自然再生活動の更なる展開を図るため、各団体間の連携、協働のあり方や課題について各団体の三名の方からお話を頂きたいと思います。

◆　緑区青根地域振興協議会　　関戸　正文

いま紹介されました緑区青根地域振興協議会の会長をしております、関戸でございます。青根というのは相模原市緑区の裏丹沢の登山口であり山梨県に近いところで、世帯数 200 戸くらいの小さな集落です。丹沢山の山の麓にへばりついている様な所で、国道 413 号線に沿って民家があるような場所です。下の方には道志川があり、明治の頃に横浜市の発展を下支えし、水道の水源地になっています。自治会等の各種団体 30 団体くらいを総括して、地域振興策や課題等を検討する組織として地域振興協議会が活動しております。

今回のテーマである自然環境というのは、我々の地域では正に避けて通れません。主な産業は何もなく、できるのは山と川を利用したもので、特に最近では 1000 人規模を収容できるキャンプ場が５、６箇所できているくらいです。そういった中で裏丹沢の登山者がすごく増えてきているのを目の当たりにしています。地元の中では、準限界集落という高齢化の地域ですので、地域の活性化をということで、青根の道志川から宮ヶ瀬ダムへ送っている水による地域への振興基金等を元にして、殆ど行政からの税金の投入を頂かずに、温泉の掘削、癒やしの湯という温泉の建築までやりました。これにより、地元の就労場の確保、登山者の安らげるところということで青根地区の拠点として今後活用していこうと思っています。

地域の中の主な活動として山と自然に関係する部分ですが、一つは今回 15 回目になる 2000 人規模の山岳耐久レースです。総勢 200 戸の集落から 100 人ほどのボランティアを出して地域を挙げて支援させて頂いています。神の川ウォークでは自然を大事にする公園までも含めて、地域と山岳センターの関係者を交えて地域作り、もの作りの一つとして一緒に活動しています。地域の中では自治会単位で集落の中の山にも及ぶ清掃活動、山林所有者にも協力を頂いて、林道整備等も地域の大きな活動の一つとしてやっています。

地元の１学年に数名の児童数しかいない青根小学校では、自然環境の授業を多く取り入れています。他ではまず見られない学校が管理する学校林や学校農園を使っての自然の体験等、学校教育を通して自然の大切さを指導しています。これは地域と学校が一体になっ

てのことです。

他には道志川を中心とした川遊びや川流れなどの体験教室等が、様々な団体の主催で地域がサポートして常時行われています。その中で特出すべきなのは麻布大学のグループによる休耕田の棚田を利用しての稲作で、活動の中では神奈川県の準絶滅危惧種に指定されているカヤネズミとアカガエルの生息が確認されました。環境省の事業として青根を拠点に生息実態調査を活動しています。

さらに子供達に実体験を通して教えてあげたいということで、小学校と連携を取り、同じく環境省の事業で里地調査の生物多様性の調査の事業の中で人材育成プロジェクトができ、現在ではモデル指定校となって活動しています。当然、この活動をしている大学生、一般公募の人たちは地域の行事、イベントにも多く参加しています。また、その事業の中には学校林の下草刈り、植林、間伐等も大きな事業の一つとなっています。さらに行政に感謝を申し上げるべきなのですが、青根地区では昭和 50 年代に水不足が深刻になりました。そこで宮ヶ瀬にダムをという話になったのです。荒れている山を何とか自然に近い状態に戻したいという地元の願いと、利水地域の人たちの水源税を少しでも水源地へ還元して環境整備に役立ててほしいという運動が実現したことで水源保全の体制整備もできていると思います。水源林保全事業は莫大な規模で県が主体となって実施されています。毎年毎年、間伐除伐がされ、裏丹沢も非常に明るくなってきています。地元の団体が働きかけ、地主さんにも地元の方にもぜひ協力して頂いて、山をきれいにしていこうという活動もしており、正に自然再生活動の一つだと思っています。

特にこれからの課題としては、今回発表のあったようなグループの方々の受け入れをしておりますので、そこに横串をさして一つにできる様な形を作り、活動をしていきたいと思っています。もう一つは活動の拠点作りについてですが、癒やしの湯に拠点としての機能持つ建物を構築する計画を立てています。現在は遅れていて未完成ですが、なるべく早く実現する様にと考えています。

また、温泉を掘った経緯の中で、登山者から表丹沢からの縦走が魅力だということを聞き、下りたところで温泉に入れるし、キャンプに来た人も温泉に入れて、地域の活性化に繋がると期待したのですが、公共交通機関のバスが殆ど無かったため、縦走ができませんでした。バスは土日共に三ヶ木～橋本ルートには朝１本、３時前後に１本しかありません。藤野方面からだと一日３本くらいです。この時間に合わせて登山するというのはなかなかに難しいので、市とも協議して増便をしてくれる様にお願いしているところです。というのも、観光地的な部分も持たないと地域として生きていけないというのが我々の切実な願いだからです。

もう一つは林道整備という面で、地域用として神の川林道がヒュッテのところでゲートが閉じられています。その奥に東海自然歩道が隣接しているところがあり、ようやく今年そこまでの道路整備がされ、駐車場も若干整備されるようになりました。そういったことを中心に、地元の山、川、自然に関係すること地域の振興に繋がることを無理矢理にでもくっつけて、多くの人に来て頂ける様に、というのが地元の我々の願いです。こういう機

会に地元の小さな集落の活動が皆さんの前でできるというのは本当に光栄なことですので、自家用車でなければ行けないということなく、何とかルートを見つけて頂いてぜひ来てください。また山に携わる団体については今後も地域を挙げてサポートしていくつもりですし、中でも藤野山岳連盟さんには地域の活性化の大きな下支えになっておりますので、これからも協力していきたいと考えております。

こういった機会を与えて頂いて、本当にありがとうございました。

◆ NPO 法人みろく山の会　　鈴木　茂

みろく山の会の鈴木です。みろく山の会は名前の通り山の会で、会員は約 800 名おりまして、その中で自然保護部員は約 20 名です。かなり数が少なく、山の会の中では片身の狭い部なのですが、自然保護活動に関してはかなりの範囲で活動しています。今回は我々の活動の報告会ではありませんので、会の説明、活動内容に関しましては平成 22 年に一度この報告会の中で説明しておりますので、省略させて頂きます。

昨年の暮れにも神の川広河原の植樹に参加しましたが、杉本さんとのお付き合いのきっかけとなったのが丹沢大山自然再生委員会に出席するようになったことです。約４年経ちますが、その委員会で杉本さんが北丹沢に関しての熱い想いを色々語られていて、何かに協力できないかということで声をかけさせて頂いた中で、登山道整備や植林があると紹介され、参加するようになりました。今まで３人の方々の報告を聞いて、色々な団体との連携なり情報交換なりが非常に大事だと我々も思っております。出席されている会や所属団体等には我々も参加していますし、我々の会へも色々な方が参加されていますが、情報交換という形では、こういう場でなくても何らかの場ができれば色々な自然保護団体と情報交換ができるのではないかと考えています。

その場の一つに、丹沢大山ボランティアネットワークという自然再生委員会に属しているグループがありますが、そういう団体の中で色々な問題点を話し合い、丹沢大山の自然再生の方法に関しての前向きな会話、話ができるような場を、県にお願いするとなると障壁が多くなかなかできないので、民間の中で立ち上げた方がいいかなと考えています。例えば神の川ヒュッテで行う植樹や登山道整備の際に、賛同する方々が集まって話し合えるような機会をぜひ杉本さんに作って頂ければとお願いしたいと思っています。

我々の活動はすべて県民協働という形の名のもとに助成金を受ける等、県から色々な恩恵を受けている反面、制約も受けています。北丹沢山岳センターで登山道の新設をされている等の活動をしていると聞きましたが、仮に我々が大倉尾根辺りで同じようにしようとするとまずストップがかかります。また、大倉尾根には年間 5,000～6,000 人という登山者の方が来られるので、我々が月に１度「ボランティア、県民協働でやっています」と看板を立てて登山道整備をしているのですが、冷たい視線や言葉を掛けられたりすることもあり、時々肩身の狭い想いをしながら作業をしているのですが、それも数をこなしていけば

ある程度理解されていくのではないかと現在は思っています。

去年の９月の登山道整備中のことですが、横浜市の幼稚園の年長さん 30 人くらいが登山をしているところに出会いました。黍殻山にある避難小屋に一泊し、蛭ヶ岳まで往復する予定がその時は黍殻山の避難小屋が解体中で使えず、塔ノ岳の日帰り登山に変えたと聞き、折角なのでその子供達に小さなストラップを送りましたら、後日お礼状や絵などを頂いたという出来事がありました。幼稚園児の頃から自然保護や山登りの色々な形を通して、丹沢大山の自然再生に繋がるような活動を広めていければと思っています。それにはやはり、皆様との情報交換や連携が不可欠かと思いますので、杉本さんにお願いばかりで申し訳ありませんが、ぜひそういう機会がありましたら我々も参加して協力させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

◆ 神奈川大学学士山岳会　　落合　正治

はじめまして。神奈川大学の落合です。こういった舞台に上がってお話しするという機会はなかなか無いのですが、こちらから眺めさせて頂くと先ほどの発表でもあったように、シニアの方、ご高齢の方が多いように見受けられます。学士山岳会ですから大学山岳会の OB 会なのですが、私も教員の端くれとして学生と接点を持っておりますので、そういう形での自然再生活動の一部ということで、授業でやらせて頂いている内容を合わせてお話しできればと考えています。

神奈川大学というのは、創立したのは横浜ですが 20 数年前に平塚にキャンパスを構えました。当然、目の前に大山と丹沢がありますので、前学長からフィールドワークとして何かできないかという話がありました。私たち山岳部の者ができる事は何かと考えたときに、フィールドを上手く歩いて、理学部の学生がフィールドワークというものを実体験しながら清掃登山などはどうでしょうかと提案しましたら、ぜひやって頂きたいということになり、山岳会、山岳部員、学生が毎年１回、１週間くらいの講座で１日だけ実体験として、大学から秦野または伊勢原駅に集まり清掃登山などを含めたフィールドワークをやっています。学生たちには自然をどうしたら守っていけるかを色々な角度から学んでもらおうと考えています。

大山では丹沢の木が枯れるということがあります。大山に登ったことがある方ならご存知かと思いますが、神奈川大学の井川学先生という方が、学生と共にあちこちにいくつか酸性雨を採る設備を設置して、毎年入れ替えをしながら集めて分析するという実験をされています。霧の中に大気汚染物質が集約されるので、それを採取して分析すれば何らかの対策ができるだろうと考えられていたり、木と木の間＝樹間に光が入らないと下草等がどう成長するかということを研究していたりする分野もあります。どちらかというと、これから困るだろうと思われる学生たちと一番接点を持っているのが私なのかなと思っています。

学士山岳会と言っても小さな山岳会で、山は非常にマイナーと思われていて、80 年の伝統ある山岳部も 15 年前に一度潰れてしまいました。そこで私が立ち上がりまして、漸く現役部員が 12 名ほどの山岳部が成り立ち、OB は 130 名くらいというところにまで漕ぎ着けました。山岳部を立ち直らせるにはどうしたらよいかとスタートしたのが、皆さんご存知のセブンサミッツで何かやれば誰かが目を向けてくれのではないか、広告塔として何か発信できるのではないかということで、１～２名の部員を連れて地球を歩き、その中で自然を垣間見るということを展開しました。７大陸を回るのに 2000 年から毎年１大陸ずつ行けば７年で終わる予定だったのですが、大学の 80 周年に当たる 2008 年終了を目途にスタートすることになり、結局一年遅れの 2009 年に終了することができました。現在は次の展開に進めようと考えているところです。

私がそのプロジェクトを率いてきたのですが、代償も大きい反面、学ぶことも多く、地球の中で自然環境を守らなければいけないということを痛切に感じましたし、其々の国によって取組み方に違いがあることも勉強になりました。例えばヨーロッパのある国では、積極的に多くの観光客を集め、その費用を上手く活用していました。4000ｍくらいのところに展望台があったのですが、そこまで簡単に登れるような仕組みが作られており、多くの観光客が来ても山々は全く汚れておらず、どこへ行ってもチリ一つ落ちていないといったところでした。トイレの問題もきちっと整理されていました。

日本はどうかというと、土手一つ作ろうとしても自然破壊だと反対されて殆どできないような形ですが、逆の発想をすれば、ヨーロッパのような自然環境を保護し、そこへ家族で遊びに行ける親しみやすい遊びの場として自然を実体験できるところもあることを学びました。また南極のような人が住んでいないところも守らなければならないと感じました。北米のマッキンリー（デナリ峰）へ行った時には自然と共生するということのすばらしさを感じました。グリズリー、ヘラジカが人間の目の前を通り過ぎていくのです。それは人が歩いている中でもお互いが動物として、地球上の生物として存在しているということを自然のままに見られる場所ではないかと非常に感動しました。自然を大切にし、環境を守るということは違う面で我々の考え方も一緒に変えていかなければならないのかと考えた次第です。

こういう機会がありましたので、若者の後継者作りに悩んでいらっしゃる皆さんのやっている活動の中に、学生との接点を何とか見つけて、私が繋ぎ止めるような形でお手伝いできればと感じているところです。現在は日本山岳会の学生部で全国の学生を取りまとめる仕事もしておりますので、トレイルレース等にもいくつかの大学から学生にお手伝いしてもらう等、少しずつ参加してもらうしくみを作っています。後継者を待たれるところはひと声接点を設けてもらえれば、若い力もお手伝いできる場にできるかと考えております。

以上です。ありがとうございました。

＜会場との意見交換　　概要＞

◯会場からの質問

相模川を中心にボランティアを行っている。川の水源である山を大事にしなければならないという様々な想いはあったが、なかなか踏み込んでいけず、皆様方のご苦労に敬服している。

神奈川県は平成 19 年度から水源環境税を導入して、山がだいぶ再生されつつあると色々なところで見聞きするが、実際に山に入りチェーンソー等を使ったり、色々なボランティア活動をしたりするのに費用が掛かるという話があった。水源環境税がそういったボランティアに掛かる経費に活用できるシステムとなっているのかについて伺いたい。

・大きなところでは県が水の問題、山の問題ということでそれぞれの事業に活用されている。これはボランティアというよりも専門の方の世界であり、それ以外にボランティア団体、市民団体への支援という形で公募、申請されている。金額としてはおそらく、700 万円～1000 万円程度とそれほど大きくないが、７年ほど続けていることになる。もし、そういったお金が必要であるという団体、これからやりたいという団体があれば、応募期間中に申請されるのが良い。自分の実力、意欲に合わせて申請をすれば継続的に支援を受けられるのではないか。

・公募型のボランティア活動で資金を得ている。その資金以上に８ha の場所を、10 年間に渡って無償で借りられるという点が非常にありがたい。公募型の募集については 10 万円頂戴しているが、これはあくまで補助金で、10 万円持ち出して 10 万円補助金を頂戴するという形になる。我々はボランティアでそれなりの楽しみがあるということで自負しているので、持ち出しは当然だと思っている。

・お金の出どころという意味では水源税が回っているが、それ以前に丹沢大山は国定公園に指定がされて以降、地主には水源を保全するということで自然保護奨励金というものが出ており、その代わり伐採等については一定の規制が掛けられていた。数年前に水源税が導入され県と地権者の間で水源林協定という協定が結ばれ、先ほどの奨励金に変わる助成金を地権者がもらい、その代わり山の整備は県の事業として特定の専門指定業者に人工林、雑木林を中心に除伐、間伐を依頼して行っている。特に山が急峻な地域なので、山の保水力がないと大雨の際に鉄砲水になってしまい、これを防止するという意味合いも含まれている。

◯会場からの質問

学生さんの受け入れについて。若い学生さん、特に 20 代前半の学生さんが団体のところにきて話し合いをしてくれるのか。それによって若い学生さん達の考え方を取り入れていければと思うが、実際に学生さんが来てくれるのか、また世代間格差の問題はどうか。

・１時間～１時間半という短い時間の中で、40 名～50 名の高校生に登山道補修体験を行っているが、今すぐ意見交換を行って次世代に引き継ぐというところまでは至っていない。一般の方で若い人からお年寄りまで参加頂いている、秦野ビジターセンター主催の自然教室では意見交換を行っている。

・大学生の方については、一緒に山に行って、このままだと自然がどうなってしまうのかについて、その場を見せなければいけないと思っている。大学生達は物事を論理的に考えられると思うし、大人なので、自分で考えて何をしなければいけないのか判断する。気づいて行動する人達を一人でも二人でも増やしていければと思う。

◯会場からのご意見

まずは、登壇者の中に女性がいない、若くないということではなくて、日本には良いおじさん達がたくさんいるという感慨で、受け止めさせて頂く。女性を引き込めたらということだが、日本全国理系の女子の間で林業女子という言葉があり、その女子会が各都道府県にあるが、なぜか神奈川県にはない。丹沢大山は多くの登山者が来る場所でもあり、ぜひイケてる林業女子を引き込んで頂ければと思う。

ファッションの話では、大日本猟友会の「目指せ狩りガール」というブログの中で、いかに女性にとって山のファッションや狩りのファッションが遅れていて合うものがないかというようなことも議論されているので、ぜひご覧頂きたいと思う。

木の話では、ダムの流木は置いておくと勝手に持っていってすぐに無くなるぐらい人気があるものなので、一度、道の駅に出して値段が付くかどうかぜひ試して頂きたいと思う。青根には自家用車でないと来られないという話があったが、自家用車ならまた来年も来てくれることを願い、木も持って行ってもらうのはいかがだろうか。

道志村では今、道志の湯に薪ボイラーが設置されていて、原油から薪に全部置き換えて 1,800 万円のコストは同じだが、薪の搬出、管理、収集、ボイラー管理をする人達の雇用が生まれたと計算されている。これは道志村が受け入れている地域おこし協力隊の若い発想のおかげではないかと思われる。

ネットワークの話が出たが、それにはぜひ丹沢大山のフェイスブックを作ったらよいのではないか。どの団体も自分たちでホームページを作る必要が無く、そこで発信が出来る

ようになるので、色んな広報活動がそれで出来るようになると思う。
　シカの話では、シカ肉の商品化が進んでいないが、伊勢原の柏木牧場では、卸す値段が折り合ってちゃんと処理されているものであれば引き取るという話を聞いている。猟友会さんには、山からシカを降ろすということも作業の中に含んで頂ければ、シカが流通するようになるかと思う。

＜発表者と助言者から一言　概要＞

◆　町田グラウス山の会　安田　優

　今回は報告者ということでしたが、ここに参加して色々な情報が得られて自分自身の勉強になったと感じました。ありがとうございました。

◆　NPO 法人北丹沢山岳センター　加藤　博恵

　私は神奈川県の住民でなく八王子市に住んでおります。八王子市といっても陣馬街道の陣馬山に向かう途中です。生まれたのは裏高尾といいまして高尾山の裏側、表参道のほうではなく蛇滝という今の八王子ジャンクションがあるところの出身です。本当に昔はよかったです。子どもの頃の遊び場所は山と川の自然で、一年中遊んでも遊びきれないくらいでした。八王子は追分というところから川が二つに分かれていて南側が高尾山に流れる南浅川、北側が陣馬山に流れている北浅川がありますが、今の時期、多摩御陵に行かれると分かりますが、その下には川が流れていません。あまりにも山の上に人が入り、人家が増え、木を痛めつけてしまったため、山の保水力が無くなっています。北浅川のほうはまだ水が流れていてそれほど痛んでいないのですが、南側は自然の再生する力がなくなっています。冬の間は殆ど水が流れていないので、魚の行き来が途絶え、上流は水が流れていますが、八王子市内に流れるところでは水が切れてしまい、下流との接点がなくなっています。
　神の川、道志川はそういう状態にはなっていません。今の内に改善して自然を再生していきましょう。人が来て観光で行政は潤っていますが、自然は台無しです。高尾山は特殊な山だそうで、南側と北側に日本でも有数の植物が生えている場所だそうです。そういう所が段々ダメになっています。

◆　神奈川県山岳連盟　松隈　豊

　今日は煤ヶ谷の森のお話をさせていただきましたが、私どもでは２月の終わりに山の自

然セミナーというのを公開でやっております。また５月には二ノ塔の尾根に植樹を致します。今年は神奈川県山岳連盟が 60 周年になり、その記念を兼ねまして 200 本植えようと色々やっております。こちらも公開でやっておりますので、神奈川県山岳連盟のホームページをご覧になりまして、ご参加をぜひよろしくお願いいたします。

◆　神奈川大学学士山岳会　落合　正治

たまたま神の川ヒュッテに行きましたら、グラウスの森の下草を刈りに行くという話を聞きまして、行って来ました。去年、こうやって再生活動がされているのかと見る機会に恵まれたので、今年の授業の中ではそういったことも伝えていこうと思っています。

日本山岳会の学生部の方々が集まって学生部会という集会を毎月１回行うのですが、3、40 人くらい集まります。そういった方々に伝えると何か広がりがあるかと思っております。そのうちの武蔵野大学の活動そのものはワンゲル的な内容なのですが、部員が 60 名くらいいて、その中で山に登る若い女性も増えてきました。MAMMUT（マムート）社から協賛いただいてたくさん服も来ているのですが、孫たち用の服もありまして、着せると喜んで山へ行こう！と言い出します。少しずつ予備群というか将来を担う人たちに山を知る機会を、一緒に楽しむことを通して広げていきたいと思っております。今日このような機会にお招きいただきまして、ありがとうございました。

◆　NPO 法人みろく山の会　鈴木　茂

『魚止めの森』の植樹ということですが、確か 2008 年にみどりの財団でもその付近で植樹をしまして、それに参加したことがありました。河原で苗を植えようとしても砂利ばかりで非常に植えづらくて、ここで本当に根が付くのかと思いました。今までも尾瀬等色々な場所の植樹祭に参加しており、植樹祭の場合は業者が草刈りをやっていると聞きましたが、他はその後の草刈り等の募集がなく、経過がわからず残念です。みろく山の会では三か所の森づくりをしていますが、一般の方を募集すると色々な問題が出てくるので身内だけでやっています。もしできるようになれば、一般の方も参加する草刈り等ができればと考えています。

それから登山道整備も大倉尾根だけでなく、鍋割山荘の草野さん、遠くは私自身が尾瀬の登山道補修に行くことによって、その地域のやり方や方法を知ることができ勉強になります。チャンスがあれば、登山道補修等に関しては、いろいろな団体と技術交流をしたいと思っておりますので、こちらも募集しますし、ぜひ参加させていただきたいと思います。こちらの行事はみろく山の会のホームページをみていただくと活動予定が載っていますので、登山道補修を一緒にしていただければいいかなと思っています。

◆　緑区青根地域振興協議会　関戸　正文

私は地域という立場で最後に一言だけ申し上げます。山を愛する者達の集い、この活動は非常に素晴らしい活動であり敬服する次第なのですが、山が源となって出るのは水であるということは自然の摂理だと思います。湧水というものは人間が生きていく上で非常に重要なものです。山と川が何らかの形でコラボすることも非常に重要なことであると私は思っております。また、そこに住む地域の人達の活動団体も今までは役所頼みだったのですが、予算がないという理由から、自分たちの地域は自分たちで綺麗にしようというような動きが最近出てきていると思います。どこの地域どこの団体であっても、そういった団体で活動をする時には、地域の自治会長に必ず声掛けをされて、皆様の活動がよりスムーズに出来るように側面から協力がもらえれば、ますます山に関する活動が成果を挙げるのではないかと思います。私もその一員としてサポートするつもりでこれからも活動していきたいと思っております。

今日はどうもありがとうございました。

６．まとめ

丹沢大山自然再生委員会　県民事業専門部会部会長　久保　重明

ただいまご紹介に与りました県民事業専門部会で部会長を務めている久保でございます。

今日は、このように多くの人達にお集まり頂けるとは思っておりませんでした。ところが、一般の方だけで 50 名、関係者が 30 名、全部で 80 名ということをお聞きしまして、非常に多くの方が関心を持ってお集まり頂いたと感じております。本当にありがとうございました。

「まとめ」ということですが、難しいなと思いながら真剣に聞いておりまして、いくつかのキーワードがあるのではないかと思いました。

一つはヒルの問題で、大きな原動力の一つになっていると感じました。このために色々な清掃活動が行われたりしており、このヒルの問題はより大きなこの地域、丹沢全体を含めて問題となっていると改めて感じました。

経済的な問題も大きなキーワードだと思います。それから若い世代の教育の問題、環境美化の問題等々、このような問題のそれぞれが我々を丹沢に動かしている活動の原動力であると改めて思いました。

そういったことを念頭において本日の活動報告会を振り返ってみますと、例えば松隈さんのお話のように、住民の交流が非常に大切であるということや、科学的に林内の照度を測ることや、楽しみを共有しないと活動が継続していかないということが印象に残りました。そこで少し気にかかったのが、ボランティア活動が連盟の会員を中心に行っているというお話です。今後さらに広がっていくだろうと推察しております。

加藤さんのお話にあった広河原に行ったことがあります。非常に工夫された植林やシカ柵の問題について県の方々から説明を受けまして、そういった苦労が事前にあったということを改めて思いました。山小屋の撤去などについては、楽しんだ後に色々な問題が出てくるということも思いました。

また、安田さんのお話から、やはりそこにあった木を植えることが大切であるとつくづく感じました。私も実際に植林に行き、もらった木を見たら既にそこに同じ木が生えていたという経験がありました。やはり植林をするときにはその場にどういう木が植わっているかということを事前に十分に調査した上で木を選ばないと、同じ木を同じ場所にまた植えることになってしまいます。

「活動報告を聞いて」では、関戸さんのお話にあった緑区青根地域は行ったことがありまして、非常に大変なところだと思う反面、上手く自然教育に利用したり、水源税を利用されたり、経済的な問題も合わせて、非常にご努力されていると感じました。

みろく山の会の鈴木さんからは、色々な団体との情報交換や連携は不可欠なので、その

機会の提供をというお話がありましたけれども、これは我々の会がやらなければならないことの一つだろうなとつくづく感じておりまして、情報を共有するということも、これからこの会として心がけていかなければと改めて思いました。

落合さんのお話からは、それぞれの国が自然に対してどういう対応をしているのかということが非常にバラエティに富んでいるということで、我々も少し観点を変える必要があるのだろうとつくづく感じております。それから今度はそれに対して一つお願いなのですけれど、実際に学生さんがよく山に来るのですがなかなか続きません。たいてい１日で終わってしまいます。理由を聞いてみると、要するに単位をもらうために来ているそうなのです。単位を認定するのであれば、１日ではなく１週間、あるいは年間１ヶ月など期間を長くとって頂けると、山に何度か入っている内にだんだんと慣れて、義務的にではなく、楽しみを覚えてもらえるのではないかと経験から想像していますので、落合さんにはぜひ、改善をお願いしたいと思っています。

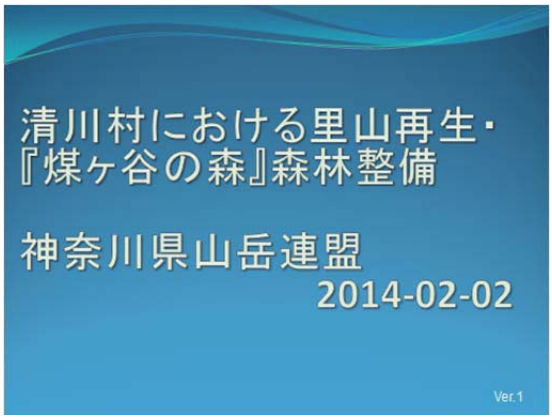
最後になりますが、冒頭のあいさつで委員長が説明した通り、昨年、再生委員会の幹事を改選いたしました。私も部会長としてこういった場に出させて頂くのは初めての経験です。今、再生委員会でどういうことをやろうとしているのか簡単に申しますと、今まで再生委員会には２つの部会、県民事業専門部会と事業評価部会がありまして、ごく最近、調査部会が出来ました。これは 2003 年頃から丹沢をなんとかしようということで多くの方が集まり丹沢について考えましたが、それをもう１度呼び起こそうということで、調査部会ができました。ミニ総合調査というものを作ろうということで調査部会の方で準備を進めております。もう一度各団体の方が集まってものを考えたり、発言したり、行動したりしていきたいと考えておりますので、我々も大いに努力しますのでご協力をお願いしたいと思っております。

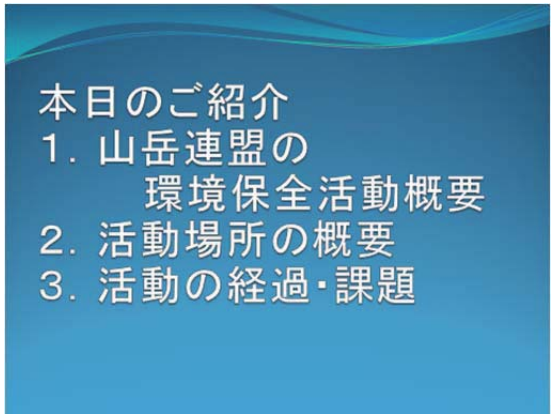
委員会としてやるべきことがあるだろうということで、幹事が改選された経緯もありますし、もちろんすでにかなりのことが前委員の方によって成果が出されてきたことだと思っております。我々も色々な面で努力していきたいと思いますし、情報公開していきたいと思っていますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

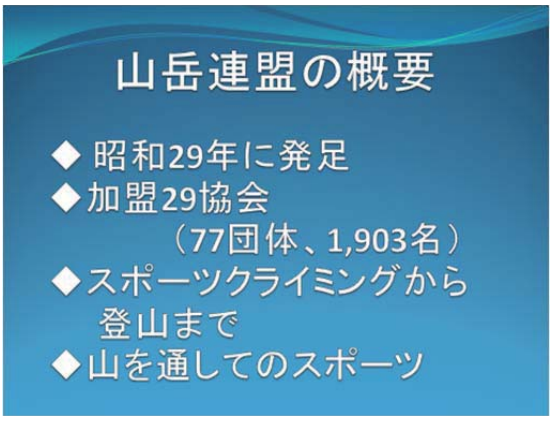
７．発表内容　＜発表資料＞

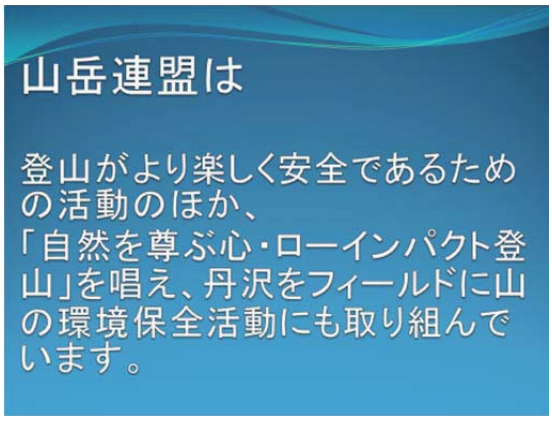
（１）清川村における里山再生『煤ヶ谷の森』森林整備

神奈川県山岳連盟　松隈　豊









活動の取り組み方について

県民との協働による森林づくり
　定着型ボランティア活動に参加活動
連盟内で実行委員会方式による運営：
　・委員長、顧問・参与（連盟幹部）、委員
活動の参加対象：連盟会員
活動の趣意：
　・登山で培った技術・経験で社会貢献
　・環境意識の再確認の機会の提供
期間：2009年4月1日～2019年3月

活動場所

地名：煤ケ谷水源林（愛甲郡清川村）
フィールド面積：7.8ヘクタール
標高：300m
形態：里山雑木林
　（コナラ、カエデ、シデなど落葉樹林、
　　一部がスギ・ヒノキ混交林）
立地：宮ケ瀬湖畔、県道64号に隣接

活動内容（1）

第1回活動　平成21年12月
　～
第32回活動　平成26年1月
　◆1月　　山神祭り
　◆6月　　上期休業
　◆11月　　下期再開

林内整備、植生観察、自然観察会、
ゴミ収集、地元交流会

活動内容（2）

地表の整備
　落ち葉掻き、倒木・落枝整理、蔓切り
除伐
　林内照度の改善、枯死立木処理
　風・雪倒木処理
除伐材の利用
　ホダ木、砂防柵工、作業道用材
食菌・キノコ栽培
林内試験、巻き枯らし伐採、萌芽更新

課題の解消について

安全対策
- 機械使用：チェーンソウ、ブロワー
  - 法定安全講習会履修者に使用限定
- 伐倒作業：安全教育の徹底
- 保護具(ヘルメットなど)の使用

保険対応
- グリーンボランティア保険(H24から加入)

機材
- 全般的に高価な機材(チェーンソウ、ブロワー、チルホール・・・・・・)

これからの課題について 新たな活動の展開

フィールドの更なる「利用」
- ◆「ふれあい」の場の醸成
- ◆「勤労奉仕」を超えた活動

（２）相模原市青根における神の川広河原の植林、下草刈、シカ柵補修

NPO 法人北丹沢山岳センター　加藤　博恵

・活動の様子をテレビ放映されたビデオを上映

番組名：「TBS テレビ『風の声』」

（３）相模原鳥屋『魚止めの森』森林整備及び秦野市ヤビツ峠における清掃

町田グラウス山の会　安田　優

相模原市鳥屋『魚止めの森』
森林整備および
秦野市ヤビツ峠における清掃

町田グラウス山の会
安田　優

ヤビツ峠における清掃

毎年11月にクリーンハイクを実施している。
登山道にはごみはほとんど見当たらない。
林道周辺には、不法投棄されたものが目立つので、その回収を行った。

2010年　38名　375.5kg
2011年　雨天のため中止
2012年　50名　457.0kg
2013年　43名　347.0kg

分別作業

『魚止めの森』森林整備

周年記念行事として植樹活動を行った。

25周年(2008年)　42名　60本を植樹。
2009年　手入れ作業。
30周年(2013年)　36名　60本を植樹。

～人も自然もいきいき丹沢～

丹沢大山自然再生活動報告会

日 時　平成 26 年 2 月 2 日（日）13：30 ～ 16：30
会 場　ソレイユさがみセミナールーム1
主 催　丹沢大山自然再生委員会
共 催　神奈川県自然環境保全センター

人も自然も
いきいき
丹沢

プログラム

13：30　　開会

13：30～13：35　1　あいさつ
丹沢大山自然再生委員会　委員長　羽山 伸一

2　活動報告

13：35～14：00　(1) 清川村における里山再生・『煤ヶ谷の森』森林整備
神奈川県山岳連盟　松隈 豊

14：00～14：25　(2) 相模原市青根における神の川広河原の植林、下草刈、シカ柵補修
ＮＰＯ法人北丹沢山岳センター　加藤 博恵

14：25～14：50　(3) 相模原市鳥屋『魚止めの森』森林整備及び秦野市ヤビツ峠における清掃
町田グラウス山の会　安田 優

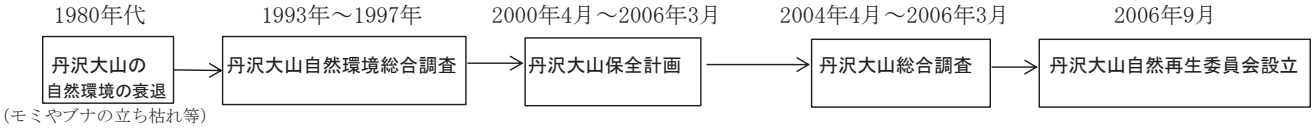
14：50～15：10　3　休憩

15：10～16：20　4　活動報告を聞いて
進行：ＮＰＯ法人北丹沢山岳センター　理事長　杉本 憲昭
・緑区青根地域振興協議会　関戸 政文
・NPO 法人みろく山の会　鈴木 茂
・神奈川大学学士山岳会　落合 正治

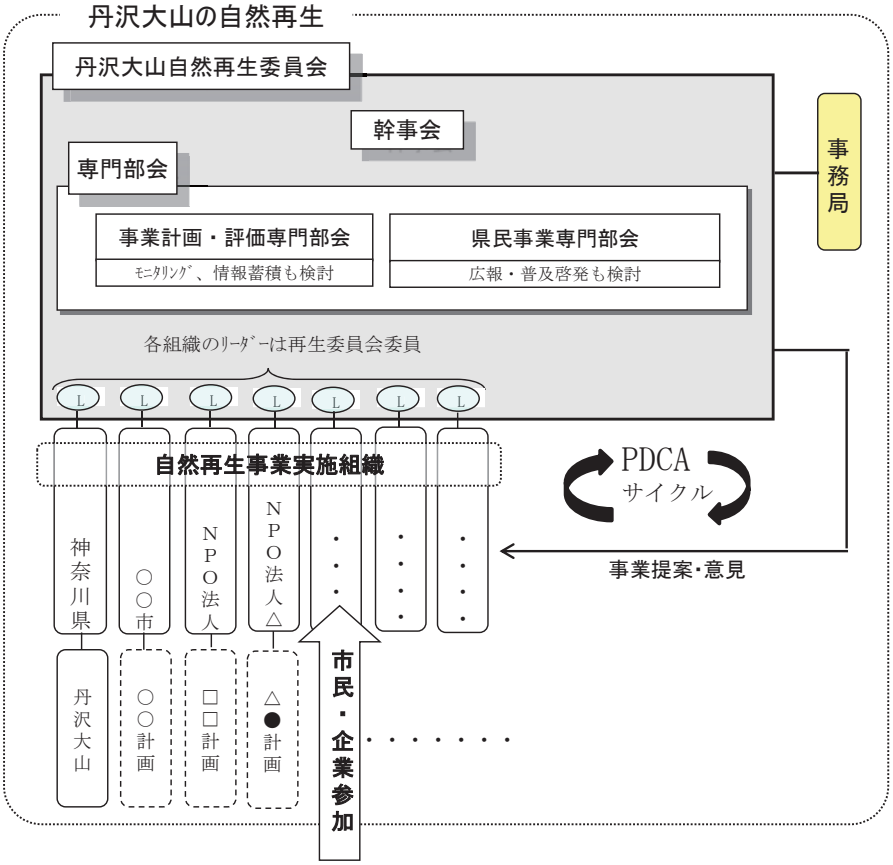
16：20～16：30　5　まとめ
丹沢大山自然再生委員会　県民事業専門部会長　久保 重明

16：30　　閉会

丹沢大山自然再生委員会設立の経緯



丹沢大山自然再生委員会の組織図



名称	内容	構成員
再生委員会	丹沢大山地域の自然再生を推進するため、必要となる事項の協議を行うとともに、普及啓発事業や県民参加事業などの必要な事業を実施する。	行政、ＮＰＯ法人、各種団体の代表者、学識者、企業、マスコミ、利害関係者
幹事会	委員会の運営に関する計画を立案するとともに、各専門部会などの下部組織間の連絡調整を行う。	委員長、副委員長、専門部会の部会長、事業実施組織のﾘｰﾀﾞｰ
専門部会	事業実施組織とは独立し、自然再生事業全体に係わる事項の審議、検討を行う。 **事業計画・評価専門部会**は、全体構想の策定、再生事業の評価、モニタリング設計、情報蓄積を検討する。**県民事業専門部会**は、広報、県民協働事業、再生事業実施、財政、その他再生委員会への参加促進策について検討する。	専門的知見から、自然再生事業を評価できる者。もしくは、自然再生事業の実行者、広報、県民活動支援ができるもの。 （学識経験者、ﾏｽｺﾐ、NPO法人等）
自然再生事業実施組織	再生事業の実行者。	行政、ＮＰＯ法人、各種団体の代表者。
事務局	委員会及び各下部組織の事務を円滑に実施するための庶務的な事務を行う。	委員会が雇用する職員

※再生委員会の委員は、専門部会に属するか、自ら自然再生事業の実行者となる必要がある。

主な活動内容

１ 普及啓発事業

地球環境イベントアジェンダの日

（平成 25 年 5 月 25 日～26 日 横浜市 象の鼻パーク）

ワールドフェスタヨコハマ

（平成 25 年 10 月 12 日～13 日 横浜市 山下公園）

２ 県民参加事業

高校生が取り組む丹沢やまみち再生体験

（平成 25 年 1 月 27 日 秦野市 大倉尾根）

丹沢フォーラム

（平成 25 年 4 月 21 日 山北町 玄倉林道）

３ 事業検証（事業計画・評価専門部会）

現地調査（ブナ・人工林・シカ）

（平成 25 年 6 月 29 日 清川村 堂平）

現地調査（人工林・シカ）

（平成 25 年 6 月 29 日 厚木市 七沢）

人も自然も
いきいき
丹沢

清川村における里山再生・『煤ヶ谷の森』森林整備

神奈川県山岳連盟
松　隈　　豊

発表要旨：神奈川県山岳連盟では、神奈川県が実施する「未来につなぐ森づくり・神奈川森林再生５０年構想」に賛同して、平成２１年から向こう１０年間にわたり、森林再生活動に取り組むこととし、宮ケ瀬湖畔の煤ヶ谷水源林内の指定地約８ヘクタールにて、「森林再生活動」を実施している。

この活動は、神奈川県山岳連盟の社会貢献活動と位置付け、「県民との協働による森林づくり実行委員会」が募集する「定着型森林づくりボランティア活動」事業の助成を得て行っている。

森林づくりボランティア活動に於いては、森林の持つ多面的機能（環境保全、生物多様性の保全、水源のかん養、土砂災害の防止、保健休養の場の提供など）を一層発揮させるため、一帯の林地の保全を図り、「多様な樹種と高い木や低い木などの階層をもった森林」を再生するものである。活動地は、煤ヶ谷地区の里山林としてあったもので、長期にわたって放置されて、鬱蒼とした不健全な森となったものを、人手の管理を加えることにより健全な里山林に戻そうとするものです。

神奈川県山岳連盟では、この活動の核として実行委員会を設立し、日頃の登山で培った技量を基盤として活動を行う中、森林との触れ合いを通しての自然環境啓発や、共同作業を通して交流、また、地元理解を得るために地元の方々との懇談会なども行うなどして、幅広い活動として取り組んでいる。

発表内容
１）神奈川県山岳連盟の環境保全活動概要について
２）活動場所の概要について
３）活動の経過・課題について
４）在来までの活動の成果について
５）これからの活動の方向について

相模原市青根における神の川広河原の植林、下草刈、シカ柵補修

ＮＰＯ法人北丹沢山岳センター
加　藤　博　恵

ＮＰＯ北丹沢山岳センターの前身は、平成６年に神の川ヒュッテ再開と同時に北丹沢山岳センターとして自然保護活動を主活動として、登山道の整備、美化活動、残骸整理、植林活動等多彩な運動体として設立しました。

このセンターはかって神の川流域に入っていた山梨県、神奈川県、東京都などの山岳会やそのＯＢ達によって創られました。

特に平成６年～平成１１年の５年間は神の川より大室山に至る日陰新道、神の川広河原より金山乗越に至る源三新道（通称佐藤新道）、神の川より地蔵平に至る地蔵新道、神の川林道、折花神社より鐘撞山に至る鐘撞山登山道とかっての４コースの登山道を掘り起し、新道等の整備を行いました。

そして平成１１年には蛭ケ岳山荘の旧山荘の廃材回収等のボランティア活動を行い、平成１２年からはかっての山小屋や避難小屋、伐採小屋などの残骸整理や植林活動を行ってきました。

本日は、私共のこれまでの活動について報告します。

「平成 12 年以降の活動内容」

第１回	蛭ケ岳のボランティア活動	（平成１２年）
第２回	犬超路のボランティア活動	（平成１３年）
第３回	原小屋平のボランティア活動	（平成１４年）
第４回	地蔵尾根伐採小屋跡地ボランティア活動	（平成１５年）
第５回	広河原植林活動	（平成１６年）
第６回	広河原植林活動・ＮＯ２	（平成１６年）
第７回	広河原植林活動	（平成１７年）
第８回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	（平成１８年）
第９回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	（平成１９年）
第１０回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	（平成２０年）
第１１回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	（平成２１年）
第１２回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	（平成２２年）
第１３回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	（平成２３年）
第１４回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	（平成２４年）
第１５回	広河原シカ柵、植林、下草刈り、清掃活動	（平成２５年）

相模原市鳥屋『魚止めの森』森林整備および秦野市ヤビツ峠における清掃

町田グラウス山の会
安　田　　優

はじめに

町田グラウス山の会は日本勤労者山岳連盟（以下、労山と略す）に所属する、町田、相模原を中心とした、会員数約１８０名の総合山岳会である。組織には自然保護部会もあり、丹沢ボランティアネットワークにも所属している。ここ数年、１１月にはヤビツ峠周辺の清掃活動（クリーンハイク）を実施している。また今年度は、魚止めの森への記念植樹を行った。それらの活動について報告したい。

記念植樹について

山岳会であるので植樹を活動の目的とはしていない。ですが、周年行事の記念として植樹を行ってきた。２０周年では大倉尾根の花立での植樹活動に参加した。また２５周年では会単独で、魚止めの森に植樹を行った。また、今年度は３０周年記念植樹を同じく魚止めの森で行った。なお、魚止めの森については今後も手入れ作業を継続して行っていきたい。

植樹活動に関しては、その植樹地の選定や樹の購入方法、植樹方法などで北丹沢山岳センターや神奈川県自然環境保全センターから情報を提供してもらった。今後の整備方法などについても検討していきたい。

２５周年で植樹したものは、鹿除けのネットが不安定の為に、ネットごと横倒しになってしまったものもあった。小石が多い土地のため支柱が安定しないのが原因である。そのため今回は、鉄柱を利用して支柱を埋める穴を開けるようにして作業を進めた。苗木については、冬期に注文して根巻きされたものを用意した方が良いようだが、注文の時期が遅くなってしまった。魚止めの森でも、ヤマビルの被害があり今後の手入れ作業は冬期を中心に行いたい。樹種については、根巻苗が手に入ったヤマボウシなどを植えたが、検討する必要を感じている。ケヤマハンノキやオオバアサガラなどが、この地では元気に生育している。

ヤビツ峠でのクリーンハイクについて

労山では６月上旬を中心に山岳地域でのクリーンハイクを実施している。当会では、他の行事との関係で１１月に行っている。本来ならば登山道を歩きながらゴミを回収するのが目的である。しかし、最近では登山道のゴミは目立たなくなってきている。反面、林道などからの不法投棄が目立つようになっている。特にヤビツ峠周辺では目立つので、その回収作業を中心に行っている。

表紙写真　　鳥屋から望む白馬尾根
表紙裏写真　昭和 30 年代の蛭ヶ岳付近のブナ林

丹沢大山自然再生活動報告会
～人も自然もいきいき丹沢～

(2) ポスター

平成２６年２月２日（日）
１３:３０～１６:３０

傷ついた丹沢の自然再生に向けて、私たち県民団体や企業、学識者、行政などが連携して様々な取組みを行っています。
今回は、主に相模原市などの北丹沢地域における取組みについて、これまでの活動報告を行い、今後の取組みについて意見交換を行います。
豊かな自然を未来へつなぐため、いま私たちができることは何か、丹沢の自然環境について一緒に考えてみませんか。

プログラム（予定）

1. 開会あいさつ
2. 活動報告
   - 清川村における里山再生・『煤ヶ谷の森』森林整備
     （神奈川県山岳連盟　松隈豊）
   - 相模原市青根における神の川広河原植林、下草刈、シカ柵補修
     （NPO 法人北丹沢山岳センター　加藤博恵）
   - 相模原市鳥屋『魚止めの森』森林整備および秦野市ヤビツ峠における清掃
     （町田グラウス山の会　安田優）
3. 休憩
4. 活動報告をきいて
   - 緑区青根地域振興協議会　関戸正文
   - NPO 法人みろく山の会　鈴木茂
   - 神奈川大学学士山岳会　落合正治
5. まとめ
6. 閉会

定　員：１５０名
参加費：無料
主　催：丹沢大山自然再生委員会
共　催：神奈川県自然環境保全センター
会　場：ソレイユさがみセミナールーム１
相模原市緑区橋本６－２－１
シティプラザはしもと内

アクセス：JR 横浜線・JR 相模線・京王相模原線
「橋本駅」北口　徒歩３分
イオン橋本店（再開発ビル）６階

申込み：行事名・住所・氏名・FAX 番号・同行者氏名を明記して、下記ホームページまたは FAX にて１月２９日（水）までにお申し込みください。
［FAX］０４６－２４８－０７３７
［ホームページ］http://www.tanzawasaisei.jp/

問合せ：丹沢大山自然再生委員会事務局
神奈川県自然環境保全センター　自然再生企画課
［電話］０４６－２４８－０３２３（内線２９８）
［Email］info@tanzawasaisei.jp

人も自然も いきいき 丹沢

（3）チラシ

丹沢大山自然再生活動報告会
～人も自然もいきいき丹沢～

平成２６年2月2日（日）　１３:３０～１６:３０

丹沢大山は身近な大自然として多くの方々に親しまれ、私たちの暮らしを支える大切な水源地にもなっていますが、様々な要因により自然環境の衰退が深刻化しています。
そこで私たち県民団体や企業、学識者、行政などが連携して丹沢の自然再生に向けた様々な取組みを行っています。
今回は、主に相模原市などの北丹沢地域における取組みについて、これまでの活動報告を行い、今後の取組みについて意見交換を行います。
豊かな自然を未来へつなぐため、いま私たちにできることは何か、丹沢の自然環境について一緒に考えてみませんか。

定　員　１５０名

参加費　無料

申込方法　行事名・住所・氏名・電話番号・FAX 番号・同行者氏名を明記して、ホームページまたは FAX にてお申し込みください。

申込先　[ＦＡＸ]０４６－２４８－０７３７
[ホームページ] http://www.tanzawasaisei.jp/

会　場　ソレイユさがみセミナールーム１
相模原市緑区橋本６－２－１　シティプラザはしもと内

行き方 ＜アクセス＞

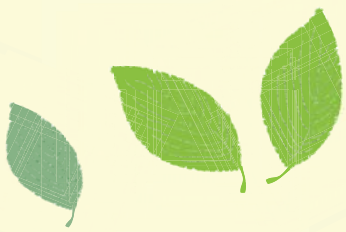
▶ JR 横浜線・JR 相模線・京王相模原線
『橋本駅』　北口　徒歩３分
イオン橋本店（再開発ビル）６階

主　催：丹沢大山自然再生委員会
共　催：神奈川県自然環境保全センター

人も自然も いきいき 丹沢

プログラム（予定）

1．開会あいさつ
2．活動報告
・清川村における里山再生・『煤ヶ谷の森』森林整備
（神奈川県山岳連盟　松隈豊）
・相模原市青根における神の川広河原の植林、下草刈、シカ柵補修
（NPO 法人北丹沢山岳センター　加藤博恵）
・相模原市鳥屋『魚止めの森』森林整備および秦野市ヤビツ峠における清掃
（町田グラウス山の会　安田優）
3．休憩
4．活動報告を聞いて
・緑区青根地域振興協議会　関戸正文
・NPO 法人みろく山の会　鈴木茂
・神奈川大学学士山岳会　落合正治
5．まとめ
6．閉会



問合せ

丹沢大山自然再生委員会事務局
神奈川県自然環境保全センター　自然再生企画課
[電　話]０４６－２４８－０３２３（内線２９８）
[E mail] info@tanzawasaisei.jp

申込締切

1月29日（水）

※必要事項をご記入の上、申込先（丹沢大山自然再生委員会事務局 FAX：046-248-0737）までお送りください。

行事名	丹沢大山自然再生活動報告会（平成 26 年 2 月 2 日）		
氏名		フリガナ	
所属		同行者氏名	
住所	〒		
TEL		FAX	
E-mail			

人も自然も いきいき 丹沢